

「2021年デジタルの日」について



令和3年6月10日
内閣官房IT総合戦略室

「デジタルの日」の創設

- 「デジタル改革関連法案ワーキンググループ」での議論を踏まえ、「**誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化**」を実現するため、社会全体で**デジタルについて振り返り、体験し、見直し、共有し合える定期的な機会**として、「**デジタルの日**」を創設。**官民で連携し、デジタル関連の技術・サービスを利用した祝祭を実施**する（※祝日ではなく、記念日として実施）。
- 「**2021年デジタルの日**」は、国民の皆様様の御意見等を踏まえ、デジタル技術で活用される二進数の数字「1」と「0」で構成された、**10月10日（日）、11日（月）の2日間**とする。

「デジタルの日」の創設経緯

- 令和2年11月
・「**デジタル改革関連法案ワーキンググループ**」において、「デジタルの日」を発案。
- 令和2年12月
・「デジタル改革アイデアボックス」において、日付を募集。
国民の皆様からの御意見等を踏まえ、**2021年は10月10日、11日に決定**。
- ・「デジタルの日」の趣旨の賛同企業・取組を掲載する「**デジタルの日**」HPを開設。
- ・「**2021年デジタルの日**」発表イベントを実施。



「デジタル改革アイデアボックス」



発表イベントの実施（令和2年12月25日）

「2021年デジタルの日」のテーマ

- 創設初年度となる「2021年デジタルの日」は、特に、以下をテーマとして実施する。
 - ①「**デジタル元年**」：9月1日のデジタル庁創設を記念。
 - ②「**デジタルデビュー**」：「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を実現するため、「新しくデジタルに触れる、感じる」ことを通じて、デジタル技術の恩恵を実感できる機会とする。

デジタル元年

【趣旨】

令和3年9月1日のデジタル庁創設を記念。

「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」を実現する第一歩として、デジタル技術に関する様々な取組を実施。

【取組のイメージ】

○デジタル庁創設を記念したイベント等の実施

○「デジタルについて振り返り、体験し、見直し、共有し合える」ことを目的とした取組を新たに実施

○企業・団体等が定期的に実施するデジタル関連の取組（セミナー・コンテスト、キャンペーン等）を、「2021年デジタルの日」の時期に合わせ、集中的に実施。

デジタルデビュー

【趣旨】

社会全体にデジタル技術の利便性をわかりやすく伝え、**「新しくデジタルに触れる、感じる」、デジタルデビューを促進**することで、デジタル技術の恩恵を実感する機会を創出。

【取組のイメージ】

○シニアや若年層のデジタル活用支援、デジタルリテラシー向上に資する取組を実施

○地域・産業の活性化に向けて様々な**地域、産業、中小企業**等におけるデジタル活用の促進を促す取組の実施

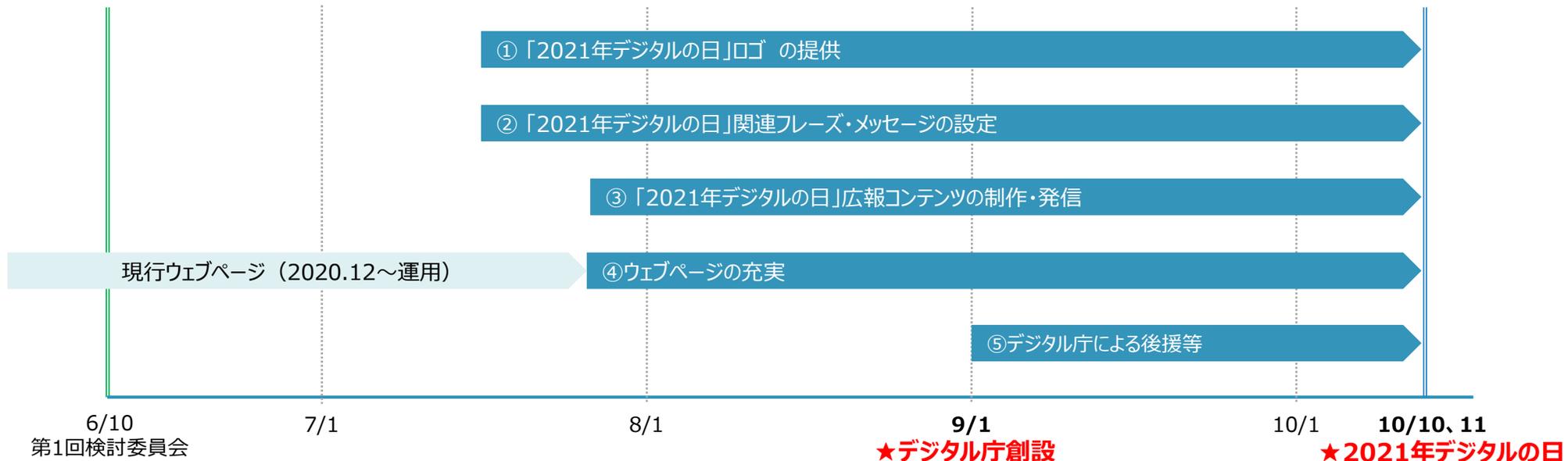
○キャリアショップなど、**オフラインの場**でのデジタル活用支援

○「人に優しい」「わかりやすい」デジタル化の推進に向けて、**ユーザビリティ・アクセシビリティの向上**を図る取組を実施

「2021年デジタルの日」に向けた広報の進め方①

- 初年度となる今年は、より多くの方が定期的にデジタルについて振り返り、体験し、見直し、共有し合える日としての定着を図るため、「デジタルの日」の**認知度向上**と**一体感醸成**を図る。
- このため、**政府としても、政府政策関連の取組**に加え、「2021年デジタルの日」の趣旨に**賛同する企業・団体等の自主的な取組の認知度向上に資する**広報等を実施していく。
- 具体的には、7月以降、以下の取組を拡大・展開していく。
 - ① 「2021年デジタルの日」ロゴの提供
 - ② 「2021年デジタルの日」関連フレーズ・メッセージの設定
 - ③ 「2021年デジタルの日」コンテンツの制作・発信（キャラクター・映像・音楽等を想定）
 - ④ 「デジタルの日」ウェブページの充実
 - ⑤ デジタル庁による積極的な後援・協賛等の実施（9月以降）

スケジュール（想定）



「2021年デジタルの日」に向けた広報の進め方②

①「2021年デジタルの日」ロゴの提供

7月 中旬～

②「2021年デジタルの日」関連フレーズ・メッセージの設定

7月 中旬～

③「2021年デジタルの日」広報コンテンツの制作・発信

7月 下旬～

・**企業・団体等からの申請**(※)を受け付け、「デジタルの日」事務局による**一定の利用基準の下での審査**を経て、ロゴ、関連フレーズ・メッセージ、広報コンテンツ（キャラクターや音楽等を想定）を提供する。

(※)利用目的、利用期間、利用にあたる改変の方法等を含む。

- ・申請は「デジタルの日」ウェブページより受け付ける。
- ・関係府省庁及び地方公共団体が「デジタルの日」の趣旨に沿ってロゴマークを使用する場合、又は報道関係機関が報道目的に使用する場合には申請は不要とする。
- ・商用利用は可能とする。

④「デジタルの日」ウェブページの充実

7月 下旬～

- ・現行の「デジタルの日」ウェブページのデザインや機能、コンテンツを一新。
- ・ロゴやフレーズ、広報コンテンツ等についての申請を受け付けるほか、政府や賛同企業・団体等の**「2021年デジタルの日」の取組等を集中的に、わかりやすく取り上げる。**

⑤デジタル庁による後援の実施

9月～

- ・「デジタルの日」関連イベントのうち、一定の基準を満たしたものについては、**9月1日よりデジタル庁による後援名義を実施**することを検討。
- ・事前に審査基準を公開し、受け付けることにより、9月1日以降、迅速な後援を実施できるようにする。

デジタル庁として実施する取組の方向性

- 今後、デジタル庁として、以下のような取組を実施する方向で検討。検討状況については、検討委員会での報告も含め、随時アップデートをしていく。

事前発信・巻き込み

- 「2021年デジタルの日」に向け、「デジタル元年」「デジタルデビュー」のテーマにふさわしい**体験や取組事例を共有・発信**するとともに**参加型の取組を実施**することで、認知度向上とより多くの参加を促す。

当日参加

- 10月10日（日）、11日（月）に、「定期的にデジタルについて振り返り、体験し、見直し、共有し合える」機会として、**政府によるイベント等（民間とのコラボレーションを含む）**を実施。
- デジタル庁関連の**デジタルサービスを活用した取組**を実施。
- 国民から広くデジタルに募集する形で、**2022年以降のデジタルの日の日付**を決定する。

討議事項①「2021年デジタルの日」ロゴ作成者について

- 「2021年デジタルの日」のロゴについては、5月12日（水）～25日（火）までの2週間、ロゴの作成者について国民の皆様からの推薦を受け付けた。その結果を踏まえ、
 - ① **得票数が1位（506件）**であること（**有効総得票数は6,699件**）
 - ② **「耳の聞こえないグラフィックデザイナー」として活躍され、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」というデジタル社会のビジョンに親和性が高いこと**
 - ③ **ご本人に同意いただいたこと**から、**岩田直樹氏に作成を依頼**することとしたい。
- 岩田氏には、ロゴ作成に加え、**「デジタルの日」に関するアドバイザーに就任いただき、アクセシビリティを含む指導・助言をいただくこと**としたい。

ロゴ推薦受付の概要

- **受付期間**
5月12日（水）～ 5月25日（火）（2週間）
- **受付内容**
「2021年デジタルの日」のテーマを形にする
ロゴ作成者の推薦を受け付け。
- **応募方法**
Googleフォームにて募集。
デジタル庁（準備中）SNSで周知を実施（[#デジタルの日](#)）

推薦受付結果・今後のスケジュール

- **推薦受付結果**
 - ・有効総得票数：**6,699件**
 - ・1位（岩田氏）の得票数：**506件**
- **今後のスケジュール**
 - 6月10日（木） ロゴ作成者決定・公表（予定）
 - 7月中旬 ロゴの公表・利用開始

「2021年デジタルの日」ロゴ作成者について

【岩田直樹氏 プロフィール】



- **推薦受付結果**
 - ・有効総得票数：**6,699件**
 - ・岩田氏の得票数：**506件**

- ・1995年11月生(**25歳**)
- ・**「耳の聞こえないグラフィックデザイナー」としてご活躍**
- ・**聞こえない人と聴者との交流の場「ろうちょ〜会」を運営**

討議事項② ワーキンググループの設置について（案）

- 「デジタルの日」検討委員会の決定に基づき、課題毎にワーキンググループを設置できることとする。
- 特に、①デジタル社会形成、②デジタルデビュー、③コンテンツに関する取組を議論するWGを設置し、各WGにおいて、「2021年デジタルの日」の実施に向けた具体的な議論を進めることとしたい。
- 各WGで取り扱った内容は、定期的に「デジタルの日」検討委員会に報告する。
- 各WGの構成員は、「デジタルの日」検討委員会において決定することとする。構成員以外であっても、各WGの主査の承認のもと、「デジタルの日」の趣旨に賛同する企業・団体・自治体等が参加できることとし、広く巻き込みを図る。

「デジタルの日」検討委員会の建付け

「デジタルの日」検討委員会

座長：村井 純 慶應義塾大学教授
構成員：有識者21名、行政機関職員
※令和3年6月10日時点

※必要に応じて

- ・追加的にWGを設置
- ・WG間での連携

※主査の承認のもと、構成員以外の賛同企業・団体等も広く参加可能

デジタル社会形成WG

主査：村井 純 座長（兼務）

○想定するテーマ

「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」を目指し、社会のデジタル化を強力に進めるための取組の方向性を総合的に検討する。

デジタルデビューWG

主査：若宮 正子 委員

○想定するテーマ

「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を実現するため、社会全体にデジタル技術の利便性をわかりやすく伝え、「新しくデジタルに触れる、感じる」、デジタルデビューの取組を促進するための検討を行う。

コンテンツWG

主査：菊池 尚人 委員

○想定するテーマ

「デジタルの日」において、社会全体を巻き込んだ祝祭を実現し、社会のデジタル化を促進するため、コンテンツ産業を中心としたエンターテインメントイベントの実施の方向性について検討する。

参考：「デジタルの日」に関する窓口・連絡先

- 「デジタルの日」ウェブページ（現行ウェブページ）

・「デジタルの日」概要の紹介や、趣旨に賛同いただいた企業・団体等のロゴ及び実施予定の取組を受け付け、掲載中。

【URL】 <https://digital-days.digital.go.jp>

【応募フォーム】 <https://digital.cp-form.jp/entry/>



- 内閣官房IT総合戦略室 「デジタルの日」事務局メールアドレス

digital-days@digital.go.jp